

農作業中のマムシ咬傷の実態

－全共連生命・傷害共済証書より抽出した89例について－

(一財) 富山県農村医学研究所 大 浦 栄 次

はじめに

日本にはマムシ、ヤマカガシ、ハブの3種類の毒蛇が生息している。人的被害で最も多いのはマムシ咬傷である。

JA 共済連の生命・傷害共済証書の2008年～2017年から抽出された農作業事故約20,600件には、農作業中のマムシによる事故事例が90例報告されている。この事例により、農作業中のマムシ咬傷の実態について検討したので以下に報告する。なお、今回の事例にはマムシ以外の毒蛇の報告はなかった。

方 法

JA 共済連の生命・傷害共済証書より抽出された農作業事故20,628件のうち、牛や蜂、蛇など生き物にかかわる事例は1,040例、5.0%であった。そのうち蛇に関わる事例が90例であり、うちマムシ咬傷が89例であり、残り1件はマムシの出現に驚き転倒し全身打撲を負った事例であった。今回は、マムシ咬傷89例について検討した。

結果と考察

(1) 性別・年齢別・月別発生実態

性別のマムシ咬傷受傷者数は、男70例(78.7%)、女19例(21.3%)であった。表1に5歳区分別の受傷者数を示した。若年者より55歳以上で受傷者が多くなり、75歳代の各年代で10%を越えていた。図1に示した10歳区分別では、60歳代が32.6%と全体の約3分の1を占め、次いで70歳代の30.3%で約3割を占めていた。この、60歳代、70歳代で62.9%を占めていた。

(2) 月別受傷者割合

マムシの活動時期のピークは7～9月と言われている。今回の調査でも、7, 8, 9月の3ヶ月間のマムシ咬傷事例は全体の66.3%を占めていた。マムシの活動が活発になる時期に、人間側の農作

表1 性別年齢別受傷者数

年代	男	女	計	%
20～	1		1	1.1
25～	1		1	1.1
30～	0		0	0.0
35～	1		1	1.1
40～	1		1	1.1
45～	3		3	3.4
50～	3	1	4	4.5
55～	9		9	10.1
60～	12	4	16	18.0
65～	8	5	13	14.6
70～	14	3	17	19.1
75～	10		10	11.2
80～	4	4	8	9.0
85～	3	2	5	5.6
計	70	19	89	100.0

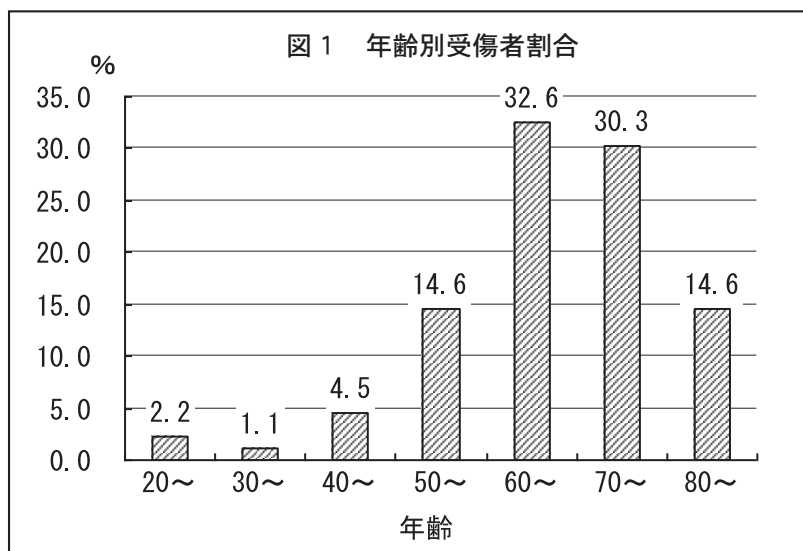
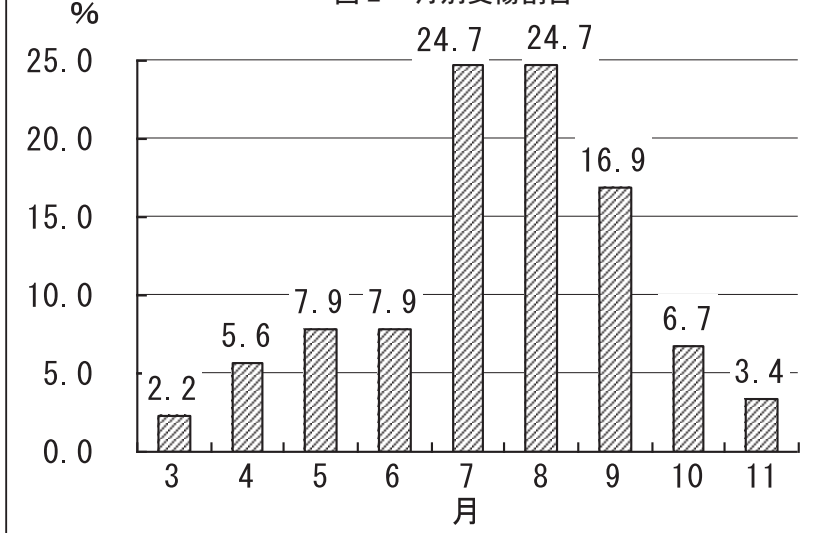


表2 月別受傷件数

月	件数	%
3	2	2.2
4	5	5.6
5	7	7.9
6	7	7.9
7	22	24.7
8	22	24.7
9	15	16.9
10	6	6.7
11	3	3.4
計	89	98.9

図2 月別受傷割合



業も活発となりマムシとの遭遇の機会が増えるためと考えられる。

(3) マムシによる咬傷発生時の農作業内容と咬傷部位

マムシに咬まれたときの作業内容を表3およびマムシに襲われた場所を表4に示した。作業内容が分かる事例は85例であり、最も多かったのは畑の草むしりや田の草取り中の50例、55.6%であった。次いで水口や溝などの掃除中の14例、15.6%であり、この2つの作業にて全体の71.2%、7割以上を占めていた。

受傷した場所の記載があったのは54例であり、そのうち最も多かったのは田の25例、46.3%であり、次いで畑18例、33.3%でありこの2カ所で79.6%と約8割を占めていた。

田の中には表3に示す水周りの掃除なども含まれている。次に作業中にマムシに咬まれた部位を表5に示した。

咬まれた部位が明らかな報告は79例であった。そのうち最も多かったのは指の45例、57.0%、次いで手掌・手背などの23例、29.4%であり、いわゆる「手」が86.1%であり、8割以上が「手」であった。また、腕が6例7.6%、足が5例、6.3%であった。

指の左右が分かる事例では、右指が25例、左指が17例であり、右指59.5%に対して左指40.5%であり概略右：左＝6：4であり右指の方が多い傾向にあった。また、右指25例中右第2指9例、第3指8例であり、右指全体の68%を占めていた。左指17例中第2指5例、29.4%であった。

このように、草むしりや田の草取りなど手作業

表3 マムシに咬まれた時の作業内容

NO	作業内容	備考	件数	%
1	草むしりなど	草むしり、田の草取り	50	55.6
2	水周りなどの掃除	水口の掃除、溝掃除など	14	15.6
3	畑などの片付け		7	7.8
4	柴・稲刈り等		6	6.7
5	野菜・果実の収穫	野菜収穫、果実の摘果など	6	6.7
6	畦にて		2	2.2
7	その他		5	5.6
合 計			85	94.4

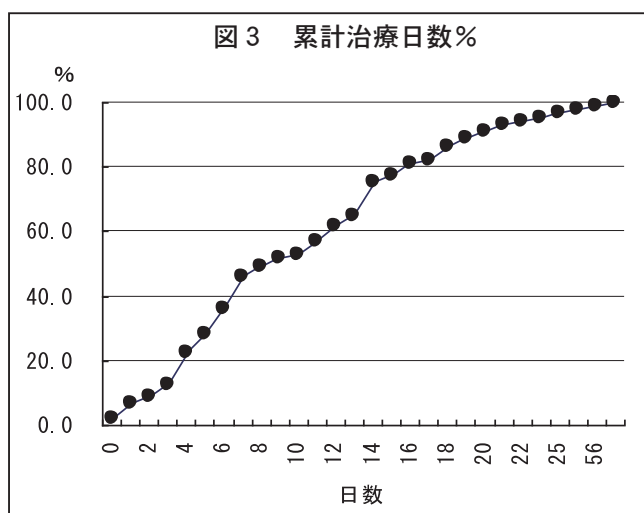
表4 受傷場所

場所	件数	%
田	25	46.3
畑	18	33.3
果樹園	4	7.4
畦	2	3.7
川・池	2	3.7
ハウス	2	3.7
牛舎	1	1.9
計	54	100.0

表5 マムシに咬まれた部位

		件数	%	(%)
手	手掌・手背など	23	86.1	29.1
	指	45		57.0
腕		6	7.6	
足		5	6.3	
合計		79	100.0	

が多いため、受傷部位が手に集中していた。なお、足の事例では長靴を履こうとして、靴の中にマムシが入っていて咬まれた事例があった。また、地下足袋の上から咬まれた事例もあった。マムシは咬む力より刺す力が強いと言われ、地下足袋など布製のものでは容易に刺し通すと考えられる。マムシの生息する場所での作業は、ゴム長靴などの着用が必要といえる。



(4) 治療概況

治療日数 8 日以内の者が約50%であった。治療日数 2 週間で75.3%で治療を終了していた。残り約 4 分の 1 の者は治療に 2 週間以上要していた。治療日数で最も長かったのは115日であり、次いで56日でありそれぞれ 1 例であった。図3に事例毎の治療日数を累計したものである。長期の治療を要したものの中には腎不全にいたった事例もあった。治療経過が記載されていた事例は89例中75例であった。治療経過の記載については特に定めがなく、詳細なものや簡潔なものであり、必ずしも正確ではない。いずれにしてもこの記載から「救急搬送」されたと認められる事例は22例、33.3%、約 3 割であった。またマムシ抗毒素血清を用いた事例が26例、34.7%であった。

ま と め

農作業中のマムシ咬傷は、マムシの活動時期と農作業時期とが重なることで起こる。今回の事例の受傷部位のほとんどが手・腕で占められており、手作業時の防護が特に重要と考えられた。マムシの出現頻度の高い地域では、地元住民もお互いよく認識していることが多い。類書のマムシ咬傷の予防に関する記述には、「マムシが出現する場所では、つっかけやや素足は避けるように」との記述しているものもある。足元については、「ゴム靴などを着用」とすることが必要である。特に、手の防護では、「可能な限り厚手のゴム手袋の着用を」との注意喚起が必要と考えられた。